

旧千手小学校におけるコバエ大量発生に関する報告

令和6年4月16日

総合政策課

1 本件概要

旧千手小学校施設内を使用し、令和5年9月に開始した九州大学農学研究院（以下、九州大学という。）によるカブトムシを活用した家畜用の飼料を生産する実証試験につきまして、施設内でクロバネキノコバエ（以下、コバエという。）が大量発生し、近隣住民宅へ侵入していることが、令和6年3月19日に市民からの連絡により発覚いたしました。近隣住民の方々にお聞きしますと、3月初め頃から住居内に蚊のような小さな虫が飛んでおり、大変不快で困っているとのことでした。

これを受けて、九州大学に対応を要請し、九州大学からは、3月22日に、施設内に殺虫剤を噴霧しコバエの発生を抑えていると説明を受けておりましたが、1週間後の3月29日時点においても、近隣住民宅にコバエの侵入が続いている状況を確認したため、九州大学合意のもと、同日、コバエの発生原因と考えられるカブトムシの幼虫及び飼育に必要な材料等（椎茸の廃菌床や竹チップを混同した堆肥）をすべて旧千手小学校から撤去し、専門業者により施設内を殺虫消毒いたしました。

カブトムシの幼虫や堆肥等の撤去先として、市内の瀬畑林道に仮置きしておりましたが、順次九州大学により市外に運搬され、現在、空のコンテナのみ残っている状況です。

本件により、九州大学による旧千手小学校施設内でのカブトムシを活用した実証試験は全て撤退しております。

2 経過（令和6年4月10日現在）

日付	主な内容
R4.8.3	九州大学と昆虫産業都市に関する連携協定締結
R5.7.25	九州大学によるカブトムシを活用した家畜用飼料生産の実証試験場所として、旧千手小学校の賃貸借契約を締結
R5.9.19	旧千手小学校施設内で九州大学によるカブトムシを活用した実証試験開始
R6.3.19	旧千手小学校近隣住民より、住居内に蚊のような小さな虫（コバエ）が大量に発生しているとの連絡がある。職員により住民宅及び施設内の状況を確認し、九州大学に状況報告及び対応を要請。
R6.3.21	市職員が、殺虫剤を用いずに拭き取るなどしながら、施設内のコバエを駆除（九州大学より、校舎内では殺虫剤は使わない旨聞いていたため）する。
R6.3.22	九州大学が、旧千手小学校施設内の状況を確認し、校舎内に飛散するコバエを市販の殺虫剤を用いてほぼ駆除する。この日以降、毎朝発生するコバエを殺虫剤で駆除すると九州大学より説明を受ける。
R6.3.25 ～ 26	市職員が近隣住民宅15件を訪問し、コバエ大量発生のお詫びとともに校舎内のコバエの駆除についてお知らせする。不在の住民にはチラシを配布する。
R6.3.29	市職員が市長とともに近隣住民宅を訪問し、コバエが飛んでいる状況を確認。生

日付	主な内容
	活環境への影響を勘案し、コバエの発生原因と考えられるカブトムシの幼虫及び椎茸の廃菌床や竹チップを混同した堆肥を旧千手小学校から撤去することで九州大学と合意。当日中に撤去を完了し、専門業者により校舎内の殺虫消毒を行う。
R6. 4. 1	九州大学の実証試験担当教授と市職員で近隣住民宅を訪問。
R6. 4. 8	九州大学と市職員で近隣住民宅を訪問。
R6. 4. 10	近隣住民宅 55 件に、九州大学との連名でカブト虫を活用した実証試験に関する謝罪と実証試験の撤退の文書を配布。また、九州大学からコバエ発生の際に使用する殺虫剤を配布。

3 クロバネキノコバエについて

いわゆるコバエの一種で日本を含む世界中に広く分布している。針などはなく人体に直接の危害を与える昆虫ではないが、生態の多くが解明されてなく、度々大量発生することで不快・衛生害虫として扱われている。成虫は体長 1 mm～6 mm。ハネは透明、褐色または黒色。腐葉土など土の中や朽木などを好んで産卵することから農業害虫となることもある。産卵後、4～7 日で孵化し、成虫になるまで 20 日～30 日程度、成虫の期間は約 1～2 週間。



4 今後の対応について

- ・ 本件の解決に向けて九州大学との協議を継続して行う。
- ・ 市の窓口は総合政策課特命政策担当とし、市民からの問い合わせに対応。
- ・ 当分の間、旧千手小学校施設内及び周辺におけるコバエ発生の状況を確認。
- ・ 状況に応じて九州大学の担当窓口へつなぐ。

(参考) 九州大学によるカブトムシを活用した家畜用の飼料を生産する実証試験概要

実験内容：昆虫（かぶとむし）、及び未利用の有機廃棄物（竹、家畜糞等）を活用した持続可能な地産地消型高機能養鶏飼料の生産システムの開発を目指し、当該システムによって生産された飼料を用いて採卵鶏への飼養試験、及び生産物（卵）の機能性評価を実施する。本事業によって、採卵鶏農家は海外に依存せず安定的に飼料のタンパク源が確保できるとともに、生産物の高付加価値化が期待される。

事業窓口：国立大学法人九州大学大学院農学研究院

実験場所：旧千手小学校（嘉麻市千手 1253 番地 1）

市の協力事項： ・旧千手小学校施設内の一部を貸与（電気・水道費用は大学負担）

※連携協定に基づき無償貸与（農林振興課で賃貸借契約）

・放置竹林を伐採した竹チップの提供（農林振興課）

・嘉麻市産のカブトムシを40匹程度提供（特命政策担当）

(参考) 旧千手小学校から撤去したカブトムシの幼虫等の仮置き場所について

